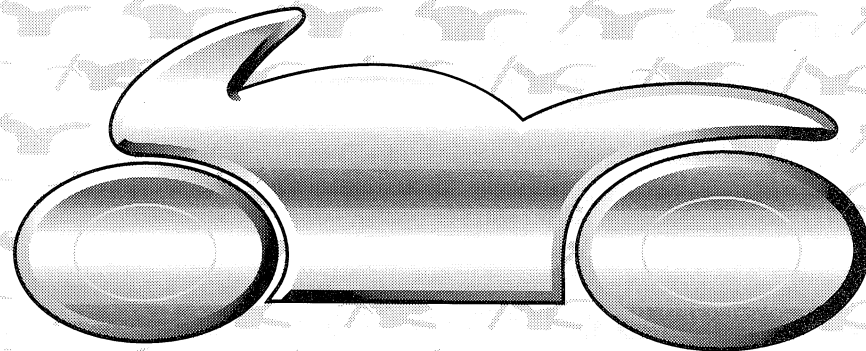






 3009701R
 本田技研工業株式会社

運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。



取扱説明書 *CB1000 SUPER FOUR*

ホンダ車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

この車の排気量：998 cm³ (cc)

排気量により必要な免許が異なります。

★この車の乗車定員は、運転者を含め2人です。
なお、運転免許を取得後1年未満の方は、法令により2人乗りはできません。

お車や、サービスについてお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた〈ホンダ販売店〉または下記の〈相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。

ホンダ二輪ディストリビュータ 《お客様相談室》

全国共通フリーダイヤル 0 1 2 0 — 0 8 6 8 1 9

● 最寄りのホンダ二輪ディストリビュータがお受けします。 ● 受付時間 9:00～17:00 土、日、祭日を除く。

本田技研工業株式会社 《お客様相談センター》

〒107 東京都港区南青山2-1-1 電話番号 03-3423-4211

● 受付時間 9:00～17:00 (12:00～13:00 昼休み)

● 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

取扱説明書について

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★この取扱説明書は、フェアリング無し車を中心に説明してあります。

安全に関する表示について

★安全に関する表示

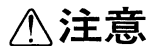
「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

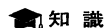


指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



お車のために守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと

知っておくと便利なこと

目 次

安全運転のために.....	4	スタータスイッチ.....	21
各部の名称.....	10	ホーンスイッチ.....	22
メータの見かた、使いかた.....	12	パッシングライトスイッチ.....	23
計器類.....	12	方向指示器スイッチ.....	24
速度計(スピードメータ).....	12	非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ).....	25
積算距離計(オドメータ).....	12	装備の使いかた.....	26
区間距離計(トリップメータ).....	12	ヘルメットホルダ.....	26
エンジン回転計(タコメータ).....	13	ハンドルロック.....	27
水温計.....	14	シート.....	28
警告灯・表示灯.....	15	書類入れ.....	29
速度警告灯(装備車のみ).....	15	携帯工具入れ.....	29
油圧警告灯.....	15	ブレーキレバーの距離調整.....	30
方向指示器表示灯.....	16	クラッチレバーの距離調整.....	31
前照灯上向き表示灯		リヤクッションの調整.....	32
(ハイビームパイロットランプ).....	16	サイドカバー.....	36
ニュートラル表示灯.....	16	リヤカウル.....	37
サイドスタンド表示灯.....	16	燃料タンクの開閉.....	38
スイッチの使いかた.....	17	燃料の補給.....	40
メインスイッチ.....	17	燃料コック.....	41
前照灯上下切換えスイッチ		正しい運転操作.....	42
(ヘッドライト上下切換えスイッチ).....	19	エンジンのかけかた.....	42
エンジンストップスイッチ.....	20	チェンジのしかた.....	45

メンテナンスを安全に行うために	50
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	53
日常点検	55
定期点検	58
簡単なメンテナンス	60
エンジンオイル	61
オイル量の点検	61
オイルの補給	62
冷却水	65
冷却水量の点検	65
冷却水の補給	66
ドライブチェーン	68
緩み(たるみ)の点検	68
給油と清掃	69
ブレーキ	70
前輪ブレーキ	70
ブレーキ液の量の点検	70
ブレーキパッドの摩耗の点検	71
後輪ブレーキ	72
ブレーキ液の量の点検	72
ブレーキパッドの摩耗の点検	73

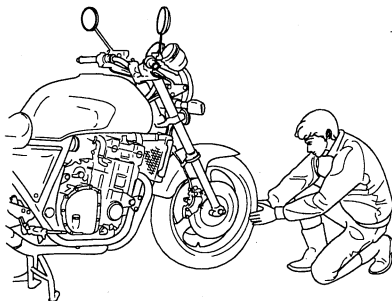
バッテリー	74
バッテリーターミナル部の清掃	75
バッテリーの取付け、取外し	76
ヒューズ	77
ヒューズの点検、交換	77
タイヤ	79
空気圧の調整	79
溝の深さの点検	79
交換タイヤの選択について	80
エアクリーナ	81
エアクリーナエレメントの交換	81
車のお手入れ	82
アルミ部品の取扱い	83
地球環境の保護について	84
色物部品をご注文のとき	85
マフラの純正マークについて	86
フレーム号機	87
オーバーヒートしたとき	88
エンジンが始動しないとき	89
主要諸元	90
サービスデータ	92

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

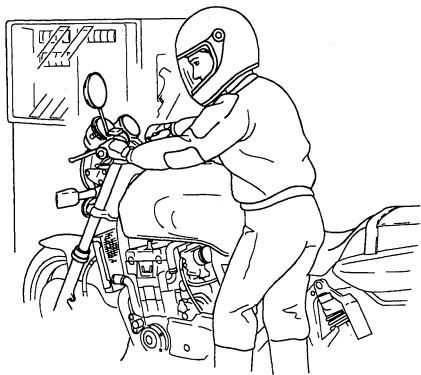
運転する前に

- 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、55 ページ参照。

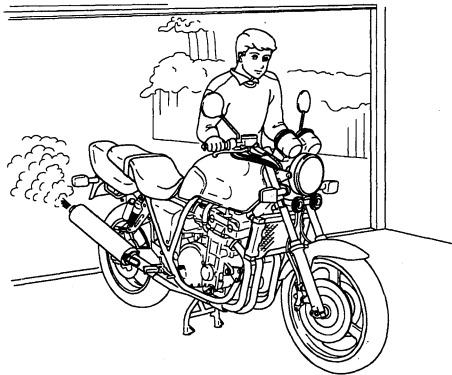


- 定期点検を実施してください。
定期点検は、58 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
ヘルメットは二輪車用でS、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合せて圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
— 二輪車用ブーツが望ましい
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
— 明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
— すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、プレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

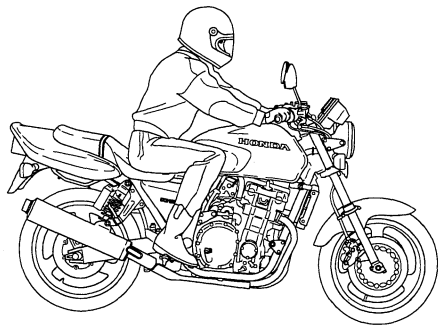
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。



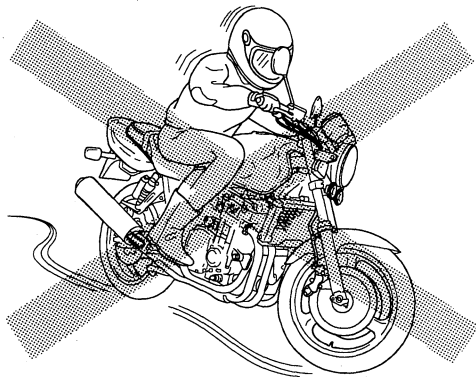
乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手でからだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。



- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。

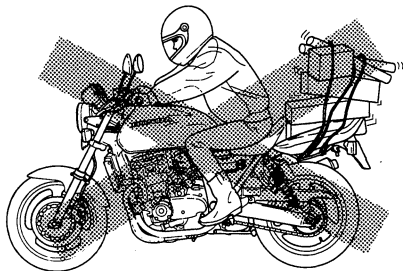
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



安全運転のために

荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。



改造

- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。

駐車

- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れにくい場所に駐車しましょう。

注意

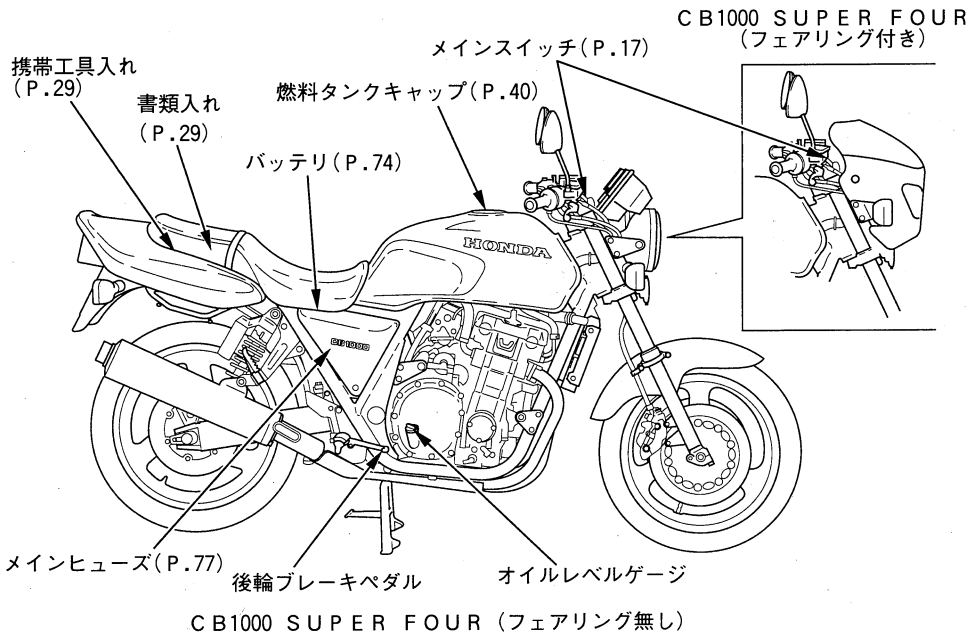
マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止直後、熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

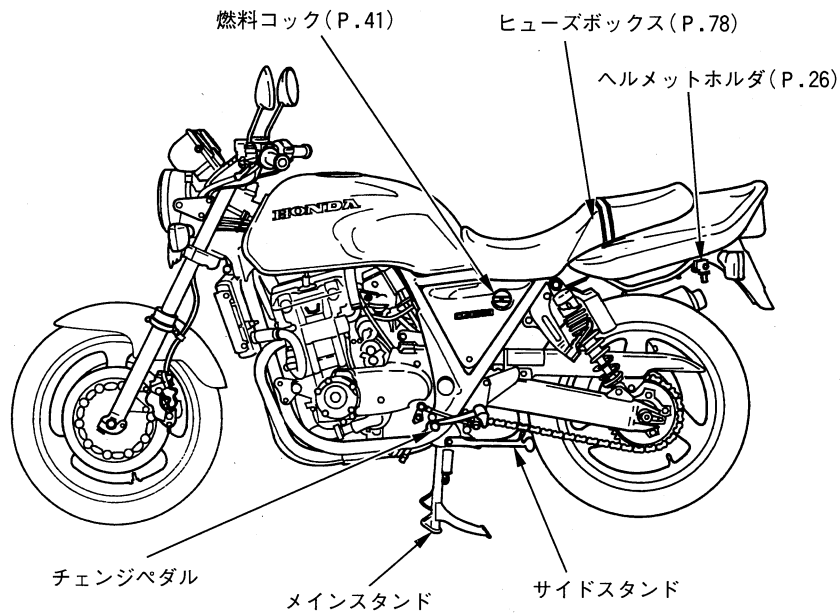
- エンジン回転中および停止直後は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのできない場所に駐車してください。

サイドスタンドでの駐車について

- 車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
- 次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
- ハンドルを右にきった状態での駐車。
 - 傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟かい所等での駐車。
- やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

各部の名称





メータの見かた、使いかた

計器類

速度計(スピードメータ)

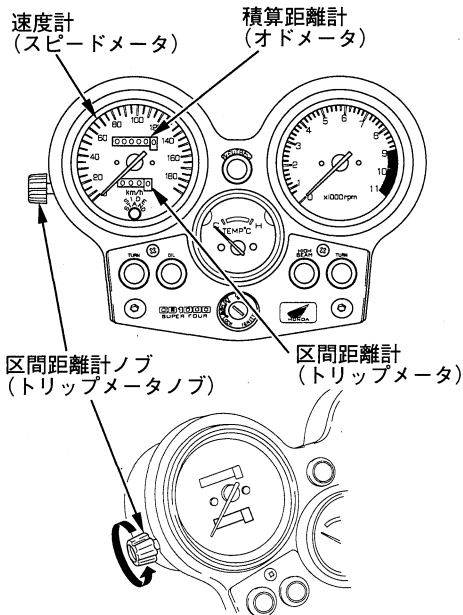
走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離を km の単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

区間距離計(トリップメータ)

メータを“0”に戻した時点からの走行距離を示します。
戻すときは、区間距離計ノブ(トリップメータノブ)を矢印の方向に回します。

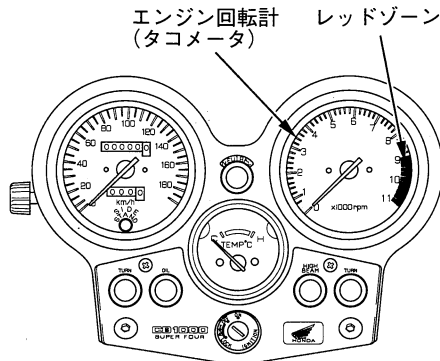


エンジン回転計(タコメータ)
エンジンの回転数を示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように
してください。

アドバイス

- 空吹きし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。
レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものです。レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジンがこわれます。



メータの見かた、使いかた

水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

走行中は、指針が目盛の赤マークより低温側にあるのが正常です。

指針が赤マークを指した場合、オーバーヒートのおそれがあります。

ただちに安全な場所に停車してください。

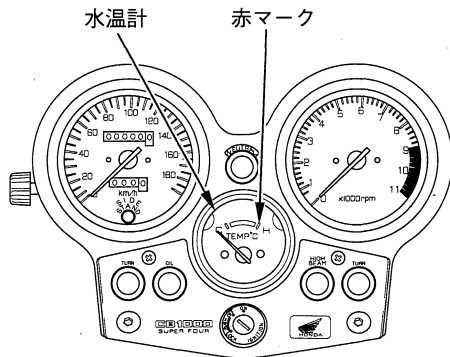
処置手順は、88 ページ参照。

🏍️ アドバイス

- 指針が赤マークを指したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

🏠 知識

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。



警告灯・表示灯

速度警告灯《装備車のみ》

速度計(スピードメータ)の指針が85 km/h 付近になると、点灯します。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダ販売店にご相談ください。

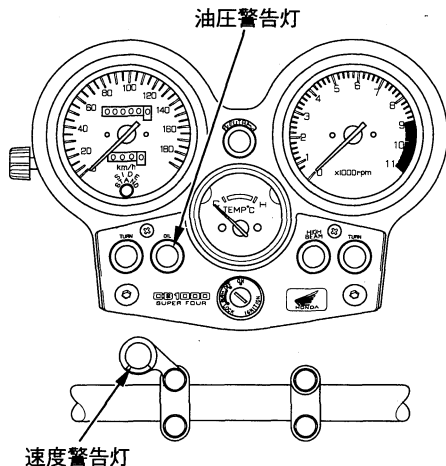
エンジンオイル量の点検は、61 ページ参照。

🏍️ アドバイス

- 油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

🏠 知識

- 油圧警告灯は、メインスイッチを“ON”にするとつき、エンジンを始動すると同時に消えるのが正常です。



メータの見かた、使いかた

方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を使用しているときは、左右の表示灯が同時に点滅します。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

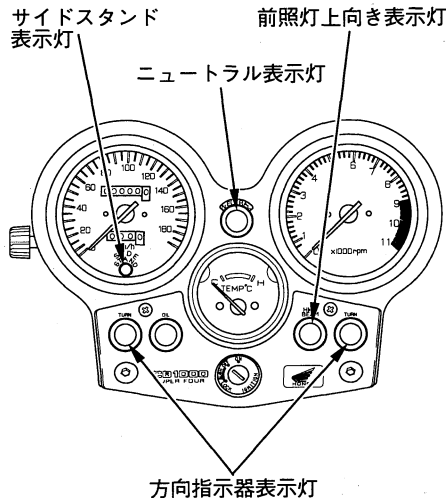
照射角が上向きのときに点灯します。

ニュートラル表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

サイドスタンド表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありサイドスタンドが使用状態のとき点灯します。



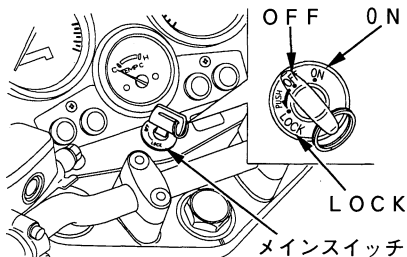
スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



キーの位置	作 用	キーの脱 着
O N	始動・昼夜間走行 ● 前照灯(ヘッドライト)などが常時点灯する。 ● 警音器(ホーン)・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える。	抜けない
OFF	停止 ● 電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる ● 電気回路を全部遮断する	抜ける

スイッチの使いかた

アドバイス

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。エンジンをかけずに“ON”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

- 車をはなれるときは、キーを必ず抜いてお持ちください。

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

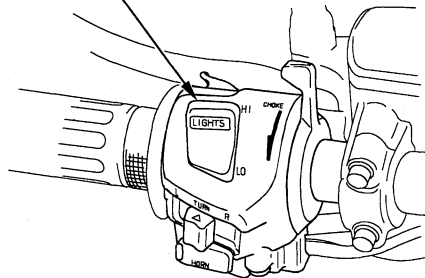
前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

H I ……前照灯(ヘッドライト)が上向き

L O ……前照灯(ヘッドライト)が下向き

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)



スイッチの使いかた

エンジンストップスイッチ

エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。

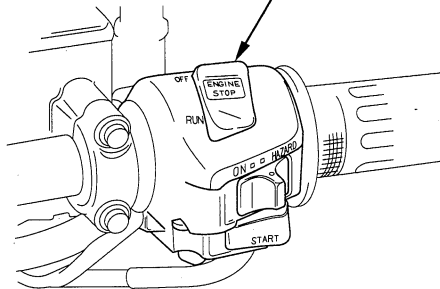
通常は“RUN”の位置にしておいてください。
“OFF”の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にエンジンストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

エンジンストップスイッチ



スタータスイッチ

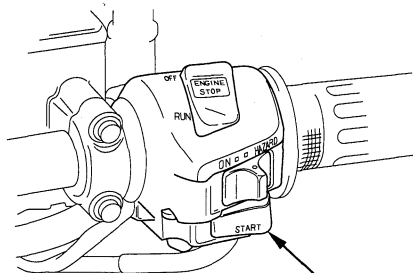
スイッチを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。

アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリーがあがるおそれがあります。

知 識

- エンジnstopスイッチがOFFのときはスタータモータは回転しません。
- スタータモータ作動時はヘッドライトが消灯します。

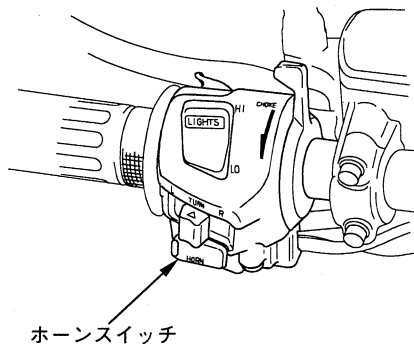


スタータスイッチ

スイッチの使いかた

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



パッシングライトスイッチ

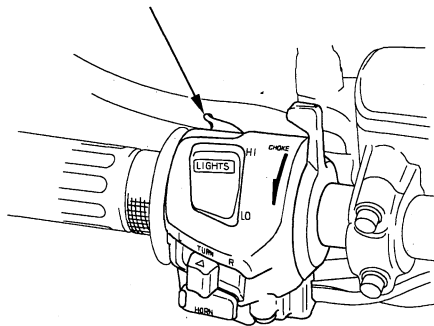
追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行います。

前照灯上下切換えスイッチが上向きときは作動しません。

パッシングライトスイッチ



スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

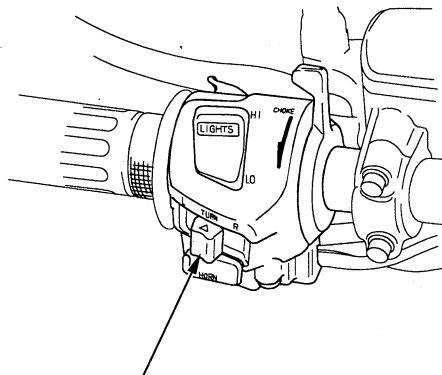
メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

R …… 右折
L …… 左折

知 識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。



方向指示器スイッチ

非常駐車灯スイッチ (ハザードスイッチ)

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。

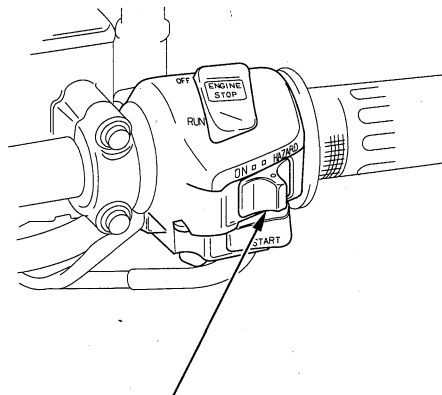
故障等で、やむを得ず路上に駐車するときに使用します。非常時にのみ使用してください。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を横に動かし、“ON”の位置(■マーク)に合わせます。

知 識

- 完全充電のバッテリーでも約20分以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。



非常駐車灯スイッチ
(ハザードスイッチ)

装備の使いかた

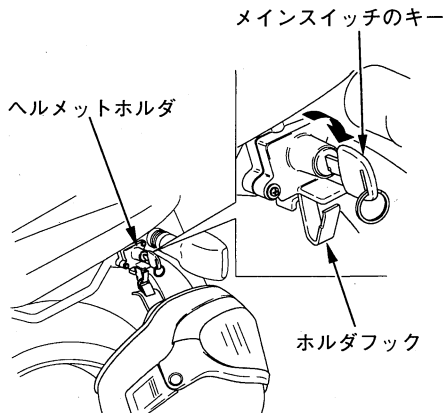
ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

《使いかた》

1. メインスイッチのキーをヘルメットホルダに差し込み、右にまわしてヘルメットホルダのロックを解除します。
2. ホルダフックに、ヘルメットの金具をかけます。
3. メインスイッチのキーを左に回してロックし、メインスイッチのキーを抜きます。



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

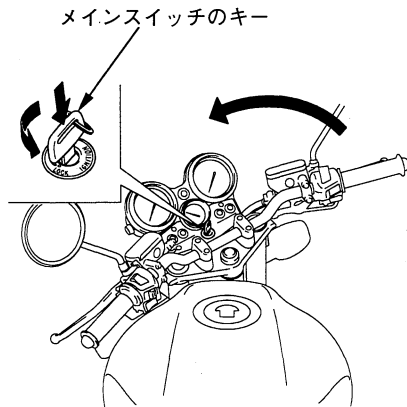
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

- かけかたの逆の要領で行います。

知 識

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。



装備の使いかた

シート

《取外し》

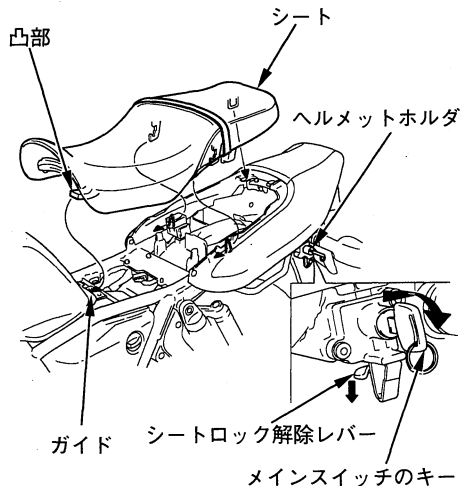
1. メインスイッチのキーをヘルメットホルダに差し込み、右に回してヘルメットホルダのロックを解除します。
2. シートロック解除レバーを下に押し下げ、シートロックを解除します。
3. シートを後方にずらしながら持ち上げて取外します。

《取付け》

1. フレームのガイドにシートの凸部を差し込み、シートを取付けます。
2. シート後部を押し下げてロックします。シートを軽く持ち上げてロックがかかっていることを確認してください。
3. キーを抜きます。

知 識

- キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取り出すことができなくなりますのでご注意ください。



書類入れ

シート裏側に書類入れがあります。

取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。

- シートの取付け取外しは、28 ページを参照してください。

知 識

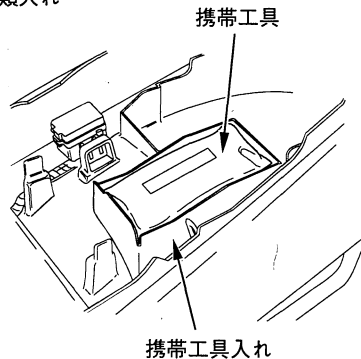
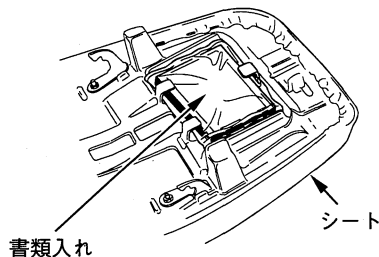
- 洗車時、シートの方から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

携帯工具入れ

シートを取外すと携帯工具入れがあります。

携帯工具は、工具入れに確実に格納してください。

- シートの取付け取外しは、28 ページを参照してください。



装備の使いかた

ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーには、ハンドルグリップからの距離を微調整できるアジャスタが装備されています。

《調整範囲》

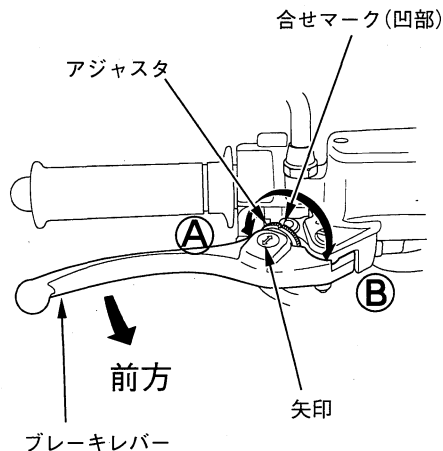
ブレーキレバーを前方に押し、レバーのガタを調べます。アジャスタを①方向に回し、レバーのガタをなくします。

このときのアジャスタ位置から、アジャスタを②方向に回し止まる位置までが、調整可能な範囲です。

《調整のしかた》

アジャスタを手で回し、調整範囲内で合せマーク(凹部)を矢印(手ごたえのある位置)に合せます。

調整範囲を越えてアジャスタを回さないでください。



クラッチレバーの距離調整

クラッチレバーには、ハンドルグリップからの距離を微調整できるアジャスタが装備されています。

《調整範囲》

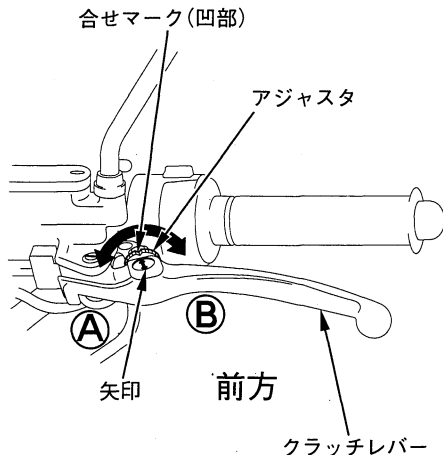
クラッチレバーを前方に押し、レバーのガタを調べます。アジャスタを①方向に回し、レバーのガタをなくします。

このときのアジャスタ位置から、アジャスタを②方向に回し止まる位置までが、調整可能な範囲です。

《調整のしかた》

アジャスタを手で回し、調整範囲内で合せマーク(凹部)を矢印(手ごたえのある位置)に合せます。

調整範囲を越えてアジャスタを回さないでください。



装備の使いかた

リヤクッションの調整

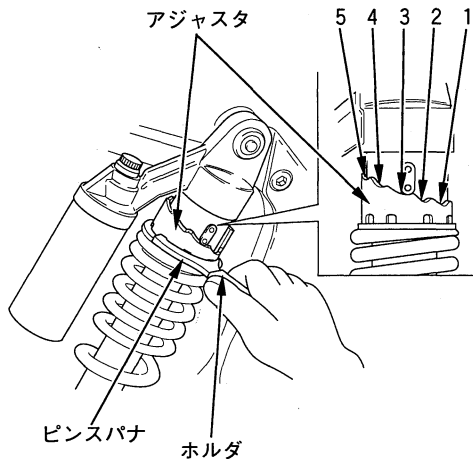
体重や路面の状態に応じて調整してください。

《スプリングの調整》

調整は、ピンスパナとホルダを使いアジャスタを回して行います。

“2”が標準の強さで、1は弱く、3～5と強くなります。

左右の強さは、必ず同じにしてください。

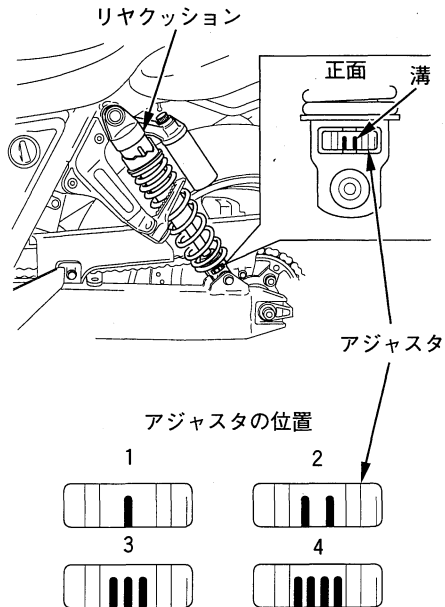


《伸び側減衰力の調整》

リヤクッション本体下部にアジャスタがあります。
調整はアジャスタを回し、溝の部分に正面に合わせます。

2が標準の強さで、1は弱く、3～4と強くなります。

アジャスタは、無理に回さないでください。
左右の強さは、必ず同じにしてください。

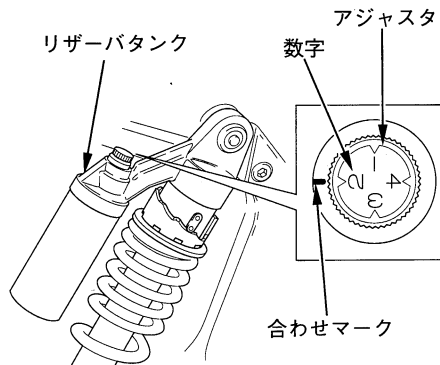


装備の使いかた

《縮み側減衰力の調整》

リザーバタンク上部にアジャスタがあります。
調整はアジャスタを回し、数字を合わせマークに
合わせます。
2が標準の強さで、1は弱く、3～4と強くなります。

アジャスタは、無理に回さないでください。
左右の強さは、必ず同じにしてください。



《ダンパユニットについて》

リヤクッションのダンパユニットには、高圧チツ素が封入されています。また、ダンパユニットは、分解すると再組立ができません。

- 火中に入れたり、穴をあけたり、分解したりしないでください。
- 廃却する際は、ホンダ販売店にお申しつけください。

装備の使いかた

サイドカバー

左右のサイドカバーは、別々に取外せます。
取外し、取付けは、次の要領で行ってください。

《取外し》

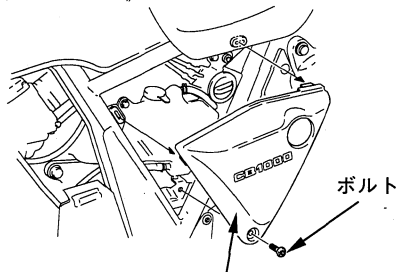
1. 携帯工具の六角レンチを使って、ボルトを取外します。
2. サイドカバーを取外します。

《取付け》

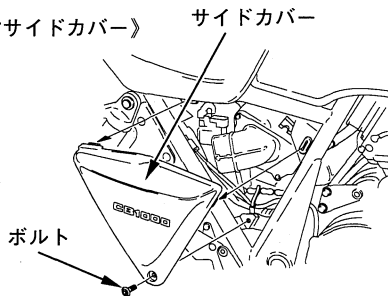
- 取付けは、取外しの逆手順で行います。

取付け後は、サイドカバーが確実に取付けてあるか確認してください。

《左サイドカバー》



《右サイドカバー》



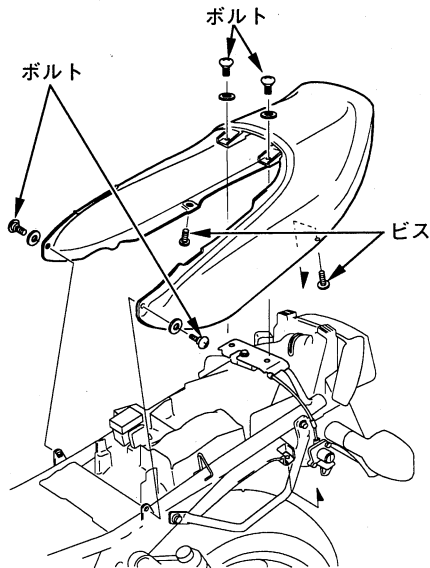
リヤカウル

《取外し》

1. シートを取外します。(28 ページ参照)
2. ビスとボルトを取外し、リヤカウルを取外します。
リヤカウルを無理にひろげると損傷するおそれがあります。

《取付け》

- 取付けは取外しの逆手順で行います。



装備の使いかた

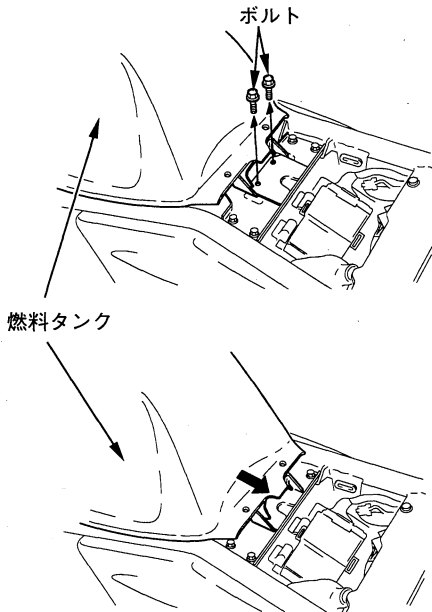
燃料タンクの開閉

整備などのために、燃料タンクの前部を持ち上げることができます。ガソリンを抜く必要はありません。

燃料タンクの下には物を置かないでください。

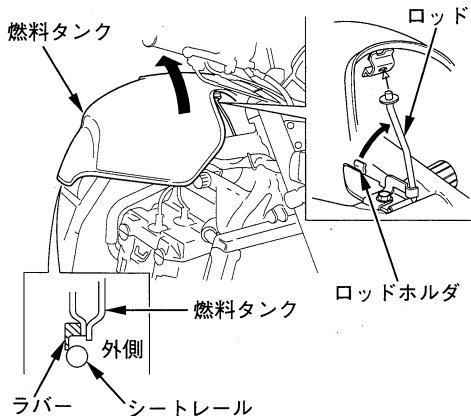
《持ち上げかた》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、車体を垂直に保ちます。
2. 燃料タンクキャップが閉じられていることを確認します。
3. 燃料コックを“OFF”にします。
4. シートを取外します。(28 ページ参照)
5. 燃料タンク後部のボルトを取外します。
6. 燃料タンクを後方へ移動します。



7. ハンドルを直進状態にし、燃料タンクの前部を持ち上げ、ロッドで支えます。

燃料タンクを必要以上に持ち上げないでください。



《閉じかた》

燃料タンクの閉じかたは、持ち上げかたの逆手順で行います。

- 燃料タンク内側のラバーが、シートレールの外側へはみ出さないように、タンクを閉じてください。
- ロッドをロッドホルダへ確実に固定してください。
- 燃料タンクを固定するボルトを確実に締付けてください。

燃料の補給

《使用燃料》

無鉛ガソリン

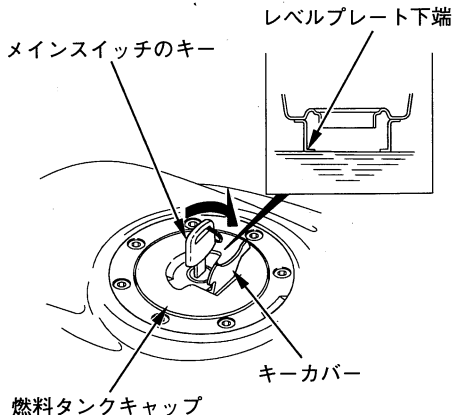
ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。



《補給のしかた》

1. キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開けます。
2. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

3. 燃料タンクキャップを手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。

燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

燃料コック

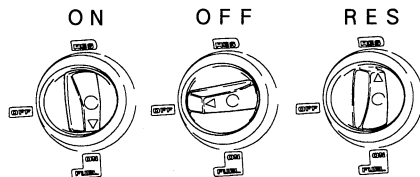
レバーの矢印が燃料コックの状態を示します。

ON ... エンジンをかけると、キャブレターにガソリンが流れます。

OFF ... 長期保管や燃料系統の点検・整備を行うとき、この位置にします。

RES ... 予備燃料です。“ON”で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早めにガソリンを補給してください。補給後は“ON”に戻してください。戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。

予備燃料容量： 約 4.8ℓ



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、43 - 44 ページの「始動手順」に従って行ってください。

アドバイス

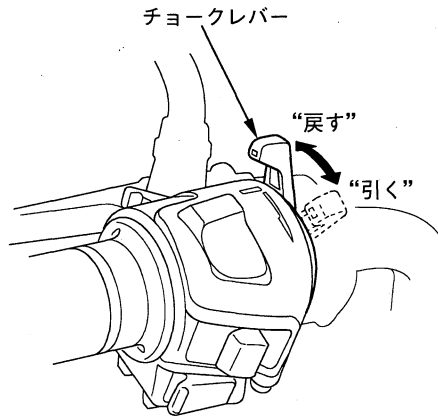
- スタータボタンを押して5秒以内にエンジンがかからないときは、10秒くらい休んでからまた押してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。

知識

- この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

《始動手順》

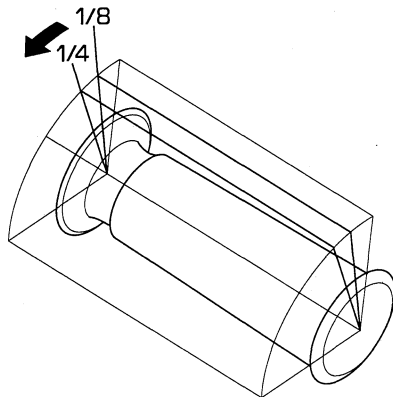
- エンジンが冷えているとき
- 1. エンジンストップスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
- 2. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
- 3. メインスイッチを“ON”にします。
- 4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
- 5. チョークレバーをいっぱいに引きます。
- 6. スロットルグリップを閉じ、スタータスイッチを押します。
- 7. エンジンがかかったら、チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻します。
- 8. サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。



- エンジンがかからないときは、89 ページ記載の要領で確認してください。

正しい運転操作

- エンジンが暖まっているとき
1. エンジンストップスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
 2. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
 3. メインスイッチを“ON”にします。
 4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
 5. スロットルグリップを閉じ、スタータスイッチを押します。(1～2回でエンジンがかからないときは、6を行います。)
 6. スロットルグリップを閉じてエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8から1/4ほど開き、スタータスイッチを押します。
 7. サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

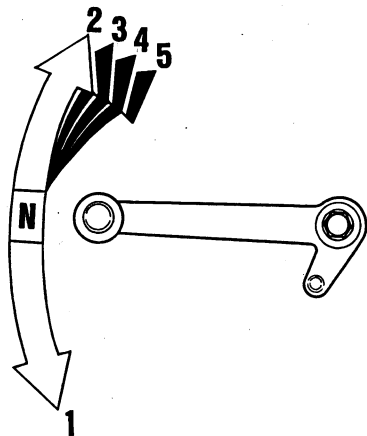


- エンジンがかからないときは、89 ページ記載の要領で確認してください。

チェンジのしかた

チェンジは、右図のような5段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- チェンジペダルの操作は、つま先で軽く行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



正しい運転操作

走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。



アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。



知識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

	速 度 範 囲
1 速	0 ~ 80 km/h
2 速	25 ~ 120 km/h
3 速	35 ~ 160 km/h
4 速	45 ~ 180 km/h
5 速	50 km/h以上

《慣らし運転》

最初の1,000 km 走行するまでは、エンジン回転を6,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジン、ミッションがこわれます。右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
5 速→4 速	180 km/h以下
4 速→3 速	140 km/h以下
3 速→2 速	100 km/h以下
2 速→1 速	50 km/h以下

正しい運転操作

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効が悪くなるおそれがありますので避けてください。

- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効が悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンブレーキ》

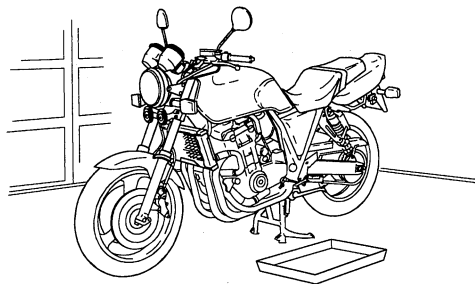
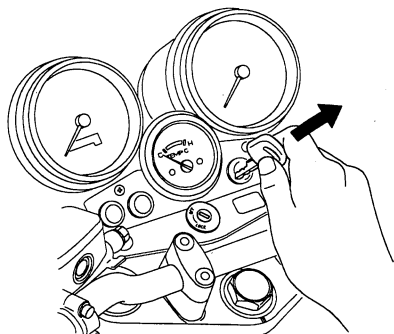
スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは4速、3速……とシフトダウンを行ってください。

急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。47 ページの表にしたがって行ってください。

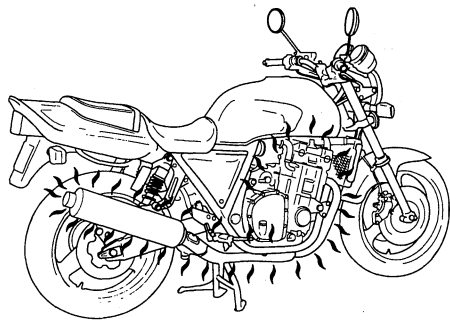
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

メンテナンスを安全に行うために

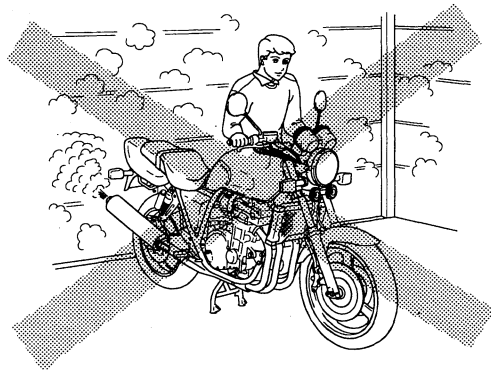
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

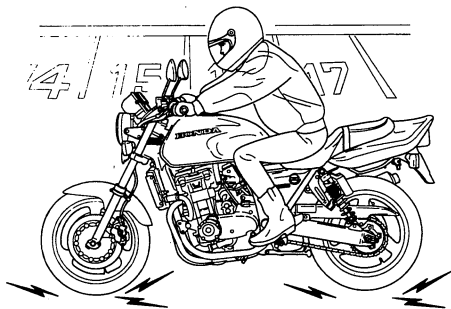


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法で1日1回の日常点検と6か月、12か月毎の定期点検整備を行うことが義務づけられています。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



警告

点検整備の方法を正しく行わないこと、不適当な整備や未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

一か月目点検について.....	54
交換部品について.....	54
日常点検.....	55
メンテナンス部品配置図.....	56
定期点検.....	58
6か月点検項目.....	59
簡単なメンテナンス.....	60
エンジンオイル.....	61
冷却水.....	65
ドライブチェーン.....	68
ブレーキ.....	70
クラッチ.....	74
バッテリー.....	75
ヒューズ.....	78
タイヤ.....	80
エアクリーナ.....	82

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。

お買いあげのホンダ販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の14ページをご覧ください。

小型自動車[250 cm³ (cc)を超えるもの]は、2年ごとに国で定める継続検査を受けなければ使用できません。
期間満了前に必ずお受けください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“ホンダ純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。

お求めは、ホンダ販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品 マーク



日常点検

日常点検

お車をご使用の方には、1日1回運転する前に点検を行うことが法で定められています。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついてある項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。60 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の20ページ以後をご覧ください。

日常点検項目

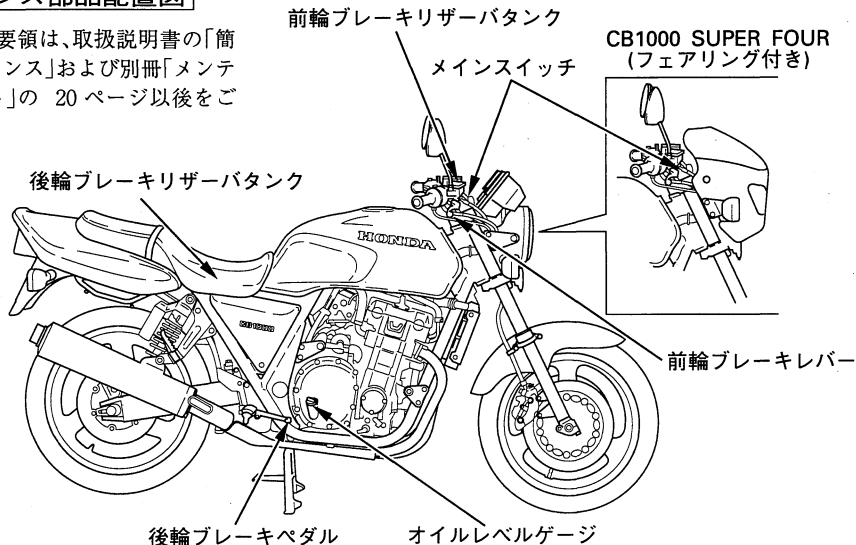
- ブレーキ
 - ・レバーの遊び(油圧式)、
 - ・ペダルの遊び(油圧式)
 - ・ブレーキのきき具合
 - ・ブレーキ液の量
- タイヤ
 - ・空気圧
 - ・亀裂、損傷
 - ・異状な摩耗
 - ・溝の深さ(※)
- エンジン
 - ・冷却水の量(※)
 - ・エンジンオイルの量(※)
(4サイクル車)
 - ・かかり具合、異音(※)
 - ・低速、加速の状態(※)
- 灯火装置及び方向指示器
- 前日の運行において異状が認められた箇所

(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期に行う項目です。

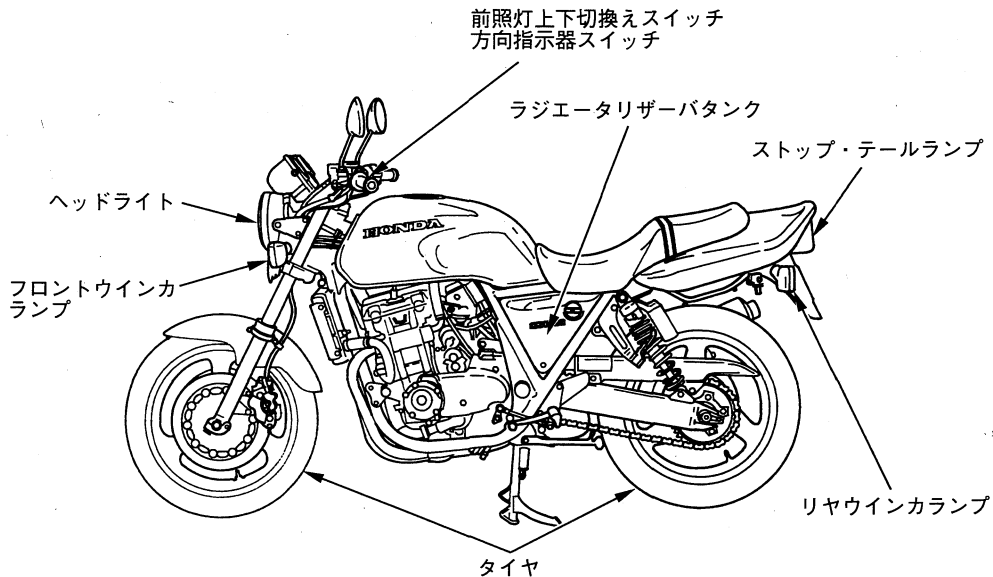
日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の 20 ページ以後をご覧ください。



CB1000 SUPER FOUR



定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法で定められた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。また、これらの法定点検項目のほかにホンダが推奨する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、ホンダ販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、ホンダ販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、92 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6 か月点検項目は、次ページにあります。
点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”(23 ページ)をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 23 ページをご覧ください。

- 点火装置
 - ・ スパークプラグの状態
- エンジン本体
 - ・ 排気ガスの状態
- 潤滑装置
 - ・ エンジンオイルの漏れ
 - ・ エンジンオイルの汚れ、量
- 冷却装置
 - ・ 冷却水の量
- クラッチ
 - ・ クラッチレバーの遊び
 - ・ クラッチの作用
- チェーン及びスプロケット
 - ・ チェーンの緩み
- ブレーキペダル及び
ブレーキレバー
 - ・ 遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- ホース及びパイプ
 - ・ 漏れ、損傷、取付状態
- ホイール
 - ・ タイヤの空気圧
 - ・ ホイールのボルト、ナットの緩み
- スイッチ類
 - ・ 灯火装置、方向指示器の作用

ホンダ推奨 6 か月点検整備項目

点検整備の内容は、71、73 ページを参照してください。

- ブレーキ装置
 - ・ パッドの摩耗

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

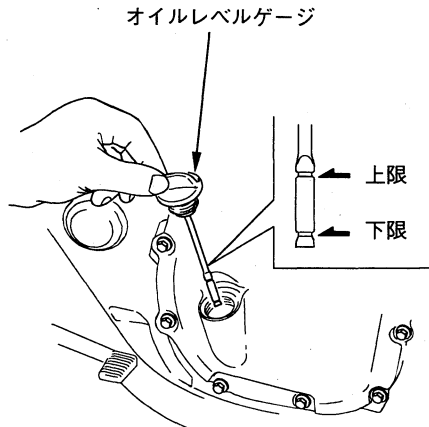
ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、ホンダ販売店にご相談ください。

エンジンオイル

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
5. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
エンジンオイルの補給は、次ページ参照。
6. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



簡単なメンテナンス

《オイルの補給》

推奨オイル

ホンダ純正オイル(4サイクル二輪車用)

	A P I 分類	S A E 規格
ウルトラ U	S E 級	10W-30
ウルトラ G P	S F 級	10W-40 または 20W-50

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

- API分類:SE級 または SF級
- SAE規格:外気温に応じ次ページの表から選択

なお、API分類とSAE規格が推奨オイルと同じでも、特性が微妙に異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

- クラッチは、エンジンオイルに浸されています。過度に摩擦を低減するエンジンオイルは、クラッチの滑りや始動不良などを発生させます。また、エンジン性能や寿命に悪影響を与える場合があります。
 - 必要以上に摩擦低減剤を含むエンジンオイルは、使用しないでください。
 - 必要以上に摩擦を低減する添加物は、加えないでください。
 - 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
- オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

外気温と粘度との関係

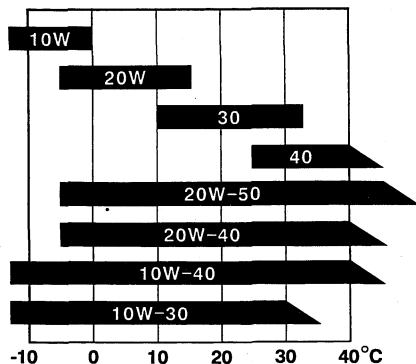
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
下表にもとづきお使いください。

交換時期

初回:1,000 km

以後:10,000 kmごと

(SAE 規格)



(外気温)

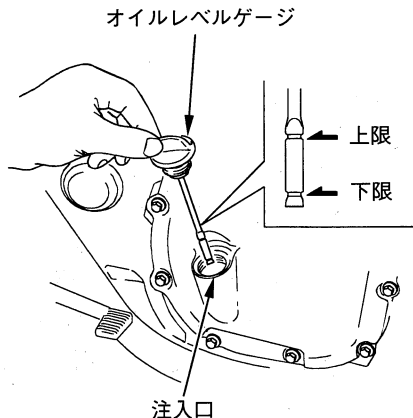
簡単なメンテナンス

補給のしかた

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルを上限まで補給します。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



🏍️ アドバイス

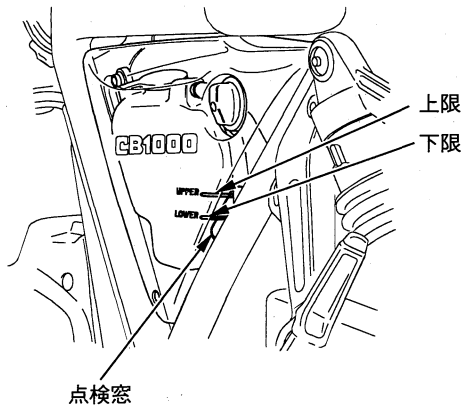
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

冷却水

《冷却水量の点検》

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. 左サイドカバー後部の点検窓を下方から見ると、リザーバタンクがあります。
3. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。
冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、ホースなどからの水漏れが考えられます。
また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。
ホンダ販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

《冷却水の補給》

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。



アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適當な水を使うとさびなどの原因となります。



警告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

冷却水指定液

ホンダ純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

濃度による不凍温度は、

30%の場合 -16°C まで

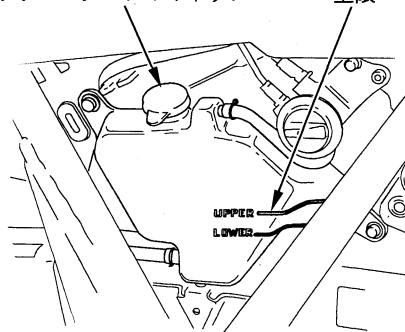
50%の場合 -37°C まで

補給のしかた

1. 左サイドカバーを取外します。
(36 ページ参照)
2. リザーバタンクのキャップを外します。
3. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
4. キャップ、左サイドカバーを取付けます。

リザーバタンクのキャップ

上限



簡単なメンテナンス

ドライブチェーン

《緩み(たるみ)の点検》

スタンドを立て、前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩み(たるみ)が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

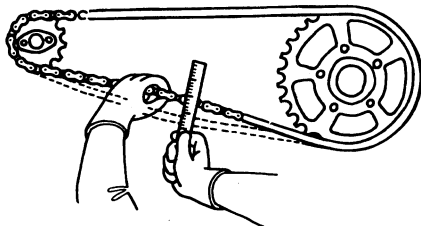
ドライブチェーンの緩み: 25-35 mm

緩みが規定の範囲を越えている場合は、調整してください。

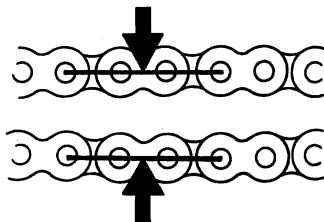
ドライブチェーンの緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。

また、後輪を手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転することを確認します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。

調整などの場合はホンダ販売店にご相談ください。



ドライブチェーンの緩み(たるみ)



《給油と清掃》

エンジンを止めメインスタンドを立て、後輪を浮かした状態で後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とします。このチェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。

汚れを落とした後、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

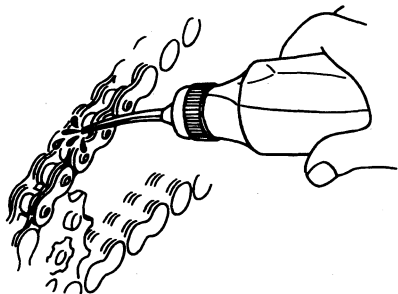
チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。

指定オイル

“ホンダ純正チェーンオイル”または
ギヤオイル(#80～#90)

🏍️ アドバイス

- ホンダ純正チェーンオイル以外の溶剤入り潤滑油(チェーンスプレー等)は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。



簡単なメンテナンス

ブレーキ

前輪ブレーキ

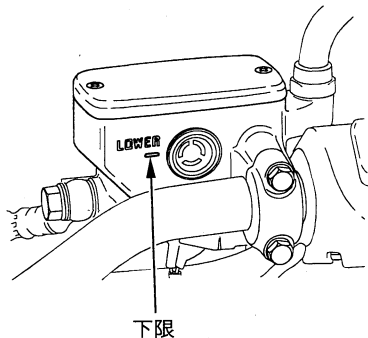
《ブレーキ液の量の点検》

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。

液面が下限(LOWER)以上にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。ホンダ販売店にご相談ください。



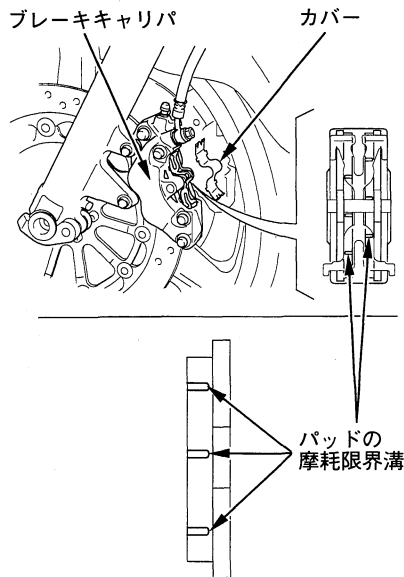
《ブレーキパッドの摩耗の点検》

(ホンダ推奨6か月点検整備項目)

ブレーキキャリパのカバーを外し、パッドの摩耗限界溝がなくなったら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

後輪ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

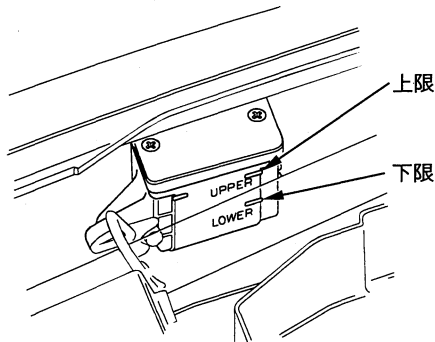
シートを外します。(28ページ参照)

平坦地でメインスタンドを使い車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態にします。

液面が上限と下限の間にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。
ホンダ販売店にご相談ください。



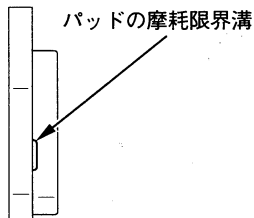
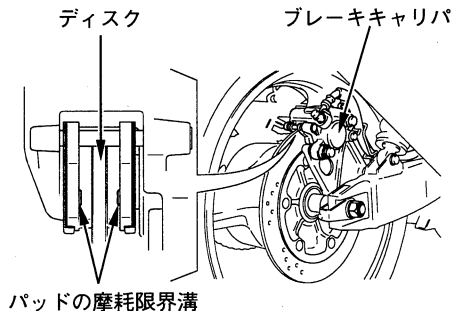
《ブレーキパッドの摩耗の点検》

(ホンダ推奨 6 か月点検整備項目)

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリーターミナル部の清掃》

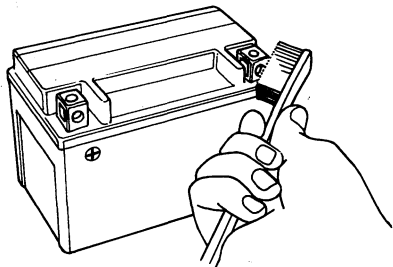
清掃のしかた

バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

その後、ターミナル部にグリースを薄く塗ります。
清掃後、バッテリーを取付けます。

バッテリーを交換する場合は、必ずメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



簡単なメンテナンス

《バッテリーの取付け、取外し》

取外し

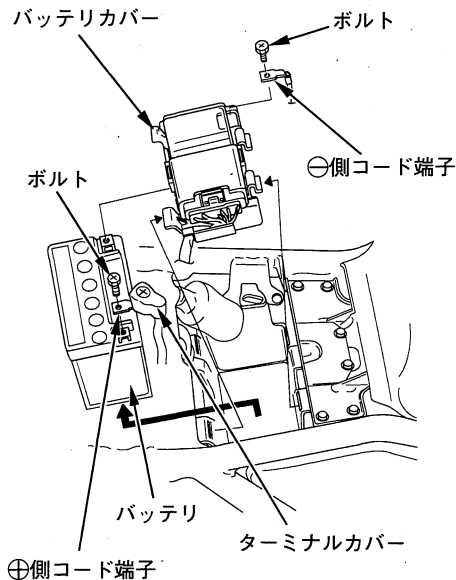
1. シートを取外します。(28 ページ参照)
2. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
3. バッテリーカバーを開けます。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
5. バッテリーを取出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。

また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

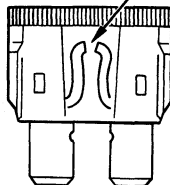
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

ヒューズ切れ



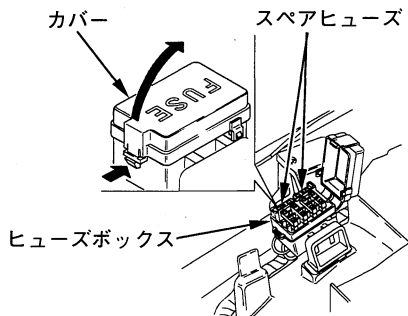
🏍️ アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

簡単なメンテナンス

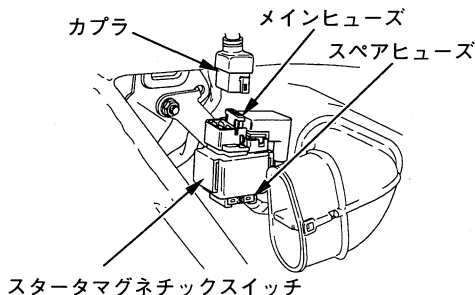
ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを外します。(28ページ参照)。
2. ヒューズボックスのカバーを開けます。
3. 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。
4. カバーを閉め、シートを取付けます。



メインヒューズ

1. 右サイドカバーを外します。
(36ページ参照)
2. スタータマグネチックスイッチのカプラを外します。
3. メインヒューズを引き抜き、確認します。
スペアメインヒューズは、スタータマグネチックスイッチの下にあります。
4. カプラ、右サイドカバーを取付けます。



タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の調整》

タイヤが冷えている状態で、エアゲージを使用し、適正な空気圧にします。

タイヤの空気圧

1人乗車時	前輪	2.50 kgf/cm ²
	後輪	2.90 kgf/cm ²
2人乗車時	前輪	2.50 kgf/cm ²
	後輪	2.90 kgf/cm ²

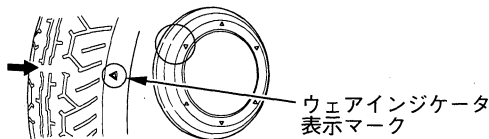
《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

また、安全な走行のためトレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪 1.5 mm 後輪 2.0 mm



簡単なメンテナンス

《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、ホンダ販売店にご相談ください。



警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	120/70R18 59V
	タイプ	ブリヂストン BT-54F RADIAL G チューブレス ダンロップ D202F チューブレス
後輪	サイズ	170/60R18 73V
	タイプ	ブリヂストン BT-54R RADIAL G チューブレス ダンロップ D202 チューブレス

エアクリーナ

《エアクリーナエレメントの交換》

1. 右サイドカバーを外します。(36ページ参照)
2. ビスを外し、エアクリーナカバーを外します。
3. セットスプリングを外し、エアクリーナエレメントを外します。

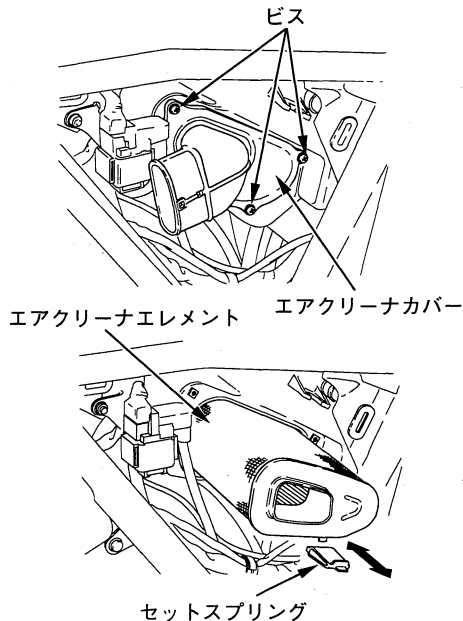
取外し後ケース内にゴミやほこり等がないことを確認し、ある場合は取除きます。

4. 新品のエアクリーナエレメントを取付け、エアクリーナカバー、サイドカバーを取付けます。

🏍️ アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。

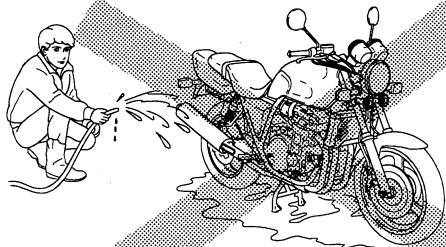
また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。



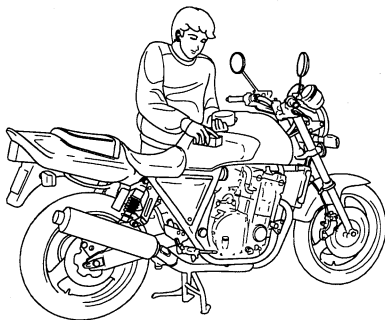
車のお手入れ

- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- 洗車時、シート下方から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。
- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。



アルミ部品の取扱い

アルミホイールは、一般的なスチールホイールと取扱いが異なります。アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

《お手入れ》

- アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌いますので、海水及び道路凍結防止剤などが付いたときには、早めに、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを落した後、十分に水洗いをしてから乾いた布で水分を拭き取ってください。

《取扱い》

- アルミ部品は、傷がつきやすいのでかためのものでこすったり、すり当てたりしないでください。
- 砂入り石鹸や硬いブラシは、アルミ部品を傷つけますので使用しないでください。

フェアリングの取扱い

《フェアリング付き車》

フェアリングの取扱いには次の項目をお守りください。

- ウインドスクリーン、フロントフェンダは傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
汚れのひどい時は、中性洗剤を使用してください。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品およびヘッドライトにかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

地球環境の保護について

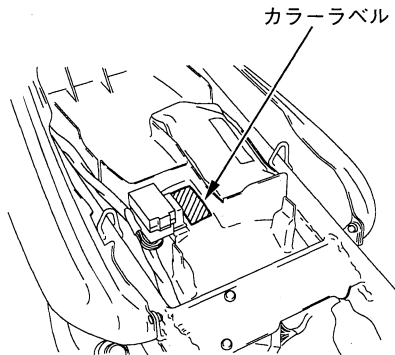
地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。

また、将来お車を廃車される場合も同様です。
これらのものを廃却する場合は、お買いあげのホンダ販売店にご相談ください。

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

シートを外すと(28ページ参照)カラーラベルが確認できます。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、ホンダ純正部品を表す
“HONDA”マークが刻印されています。

“HONDA”マーク



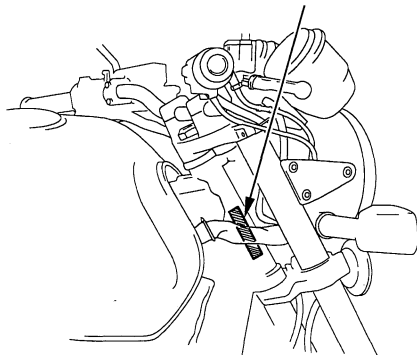
HONDA

フレーム号機

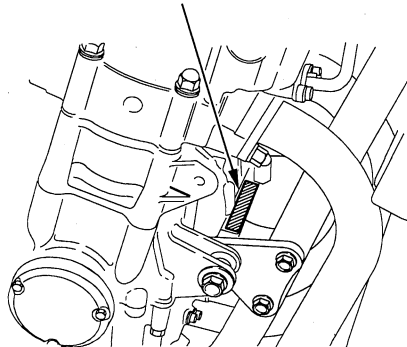
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止め、再度メインスイッチをONにします。
このとき、ラジエータの冷却ファンが作動するか、作動音で確認します。確認後、メインスイッチをOFFにします。
 - 冷却ファンが作動しない場合：
故障が考えられますので、エンジンをかけず、ホンダ販売店にご相談ください。
 - 冷却ファンが作動する場合：
メインスイッチがOFFの状態、エンジンが冷えるのを待ちます。
2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(65 ページ参照)
 - 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(66 ページ参照)

3. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。
 - 水漏れがある場合：
エンジンをかけず、ホンダ販売店にご相談ください。
 - 水漏れがない場合：
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、ホンダ販売店にご相談ください。
4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くホンダ販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。

故障の修理

- お近くのホンダ販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

型	式	SC30
長	さ	2,220 mm
幅		785 mm
高	さ	1,130 mm 《 1,205 mm 》
軸	距	1,535 mm
原 動 機 種 類	／ 総 排 気 量	ガソリン・4 サイクル/ 0.998 ℓ
車 両	重 量	260 kg 《 262 kg 》
乗 車	定 員	2 人
タ イ ヤ	前 輪	120/70R18 59V
	後 輪	170/60R18 73V
最 低 地 上 高		140 mm
燃 料 消 費 率		21.0 km/ℓ (車速60 km/h)
制 動 停 止 距 離		14.0 m (初速50 km/h)
最 小 回 転 半 径		2.8 m
圧 縮 比		10.0
圧 縮 圧 力		13.5 kgf/cm ² - 250 rpm
最 高 出 力		93 PS/8,500 rpm
最 大 ト ル ク		8.6 kg-m/6,000 rpm
エ ン ジ ン オ イ ル 量		4.6 ℓ
燃 料 タ ン ク 量		23 ℓ

《 》は、フェアリング付き車

点 火 形 式		フルトランジスタ式バッテリー点火
点 火 時 期		BTDC10°/1,000rpm
アイドリング回転数		1,000 rpm
点火プラグ	N G K	DPR8EA-9 DPR9EA-9
	日本電装	X24EPR-U9 X27EPR-U9
蓄電池（バッテリー）		12V－10Ah
機関から変速機までの減速比		1.785
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板コイル・スプリング
変 速 機 形 式		常時噛合式
変 速 機 操 作 方 式		左足動式
変 速 比	1 速	2.833
	2 速	1.941
	3 速	1.500
	4 速	1.217
	5 速	1.040
第 一 減 速 比		2.529

サービスデータ

ドライブチェーンのたるみ		25－35 mm	
タイヤ空気圧	1 人乗車	前輪	2.50 kgf/cm ²
		後輪	2.90 kgf/cm ²
	2 人乗車	前輪	2.50 kgf/cm ²
		後輪	2.90 kgf/cm ²
エンジンオイルの量	全 容 量		4.6 ℓ
	オイルフィルタ 交換時		4.0 ℓ
	オイル交換時		3.9 ℓ
ヒューズ	メインヒューズ		30A
	ヒューズ		10A, 15A
点火プラグの点火すきま			0.8－0.9 mm
エアクリーナエレメント	形 式		ろ紙式(ビスカスタイプ)
電球(バルブ)	ヘッドライト		12V－60/55W
	ストップ・テールランプ		12V－23/8W x 2
	フロントウインカランプ		12V－23/8W x 2
	リヤウインカランプ		12V－23W x 2